

2020年3月期第1四半期 決算電話会議 質疑応答要旨

日時：2019年8月14日（水） 11：00～11：40

お断り：この要旨は、決算電話会議にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、電話会議でお話ししたことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

- Q. 電子産業向け装置の受注状況について、第1四半期の業種別の動向や第2四半期以降の見通しで、期初の想定から変わったところはあるか。
- A. 国内、海外ともに第2四半期以降に受注がずれこむ案件が発生している状況だが、海外の方が遅れの程度は大きい。特に中国の遅れが大きい。
- Q. 買収したアビスタ社について、今期は利益への貢献を見込まないとのことだが、PPAやPMIがなければ、水処理薬品事業の平均的な利益率と比較して、どの程度の水準を期待できるか。
- A. RO薬品の分野で特長ある製品を持っており、国内水処理薬品事業の平均的な利益率より高い水準を期待できる。
- Q. 水処理装置事業の第1四半期の事業利益が対前年同期比で約10億円増益となったが、その要因と第2四半期以降の見方を教えてほしい。
- A. 当第1四半期は、前年同期に約11億円あった水処理装置の追加原価の縮小や減価償却費の減少などにより増益となった。第2四半期以降についても、追加原価の縮小と超純水供給事業の減価償却費の減少がプラス要因となる一方で、超純水供給事業の資産売却に伴う減収による減益影響や、国内外における水処理装置の減収影響をマイナス要因として見込んでいる。
- Q. 超純水供給事業の資産売却による受注高・売上高への影響は、第1四半期においてどの程度出ていたか。
- A. 影響は第1四半期にはほとんど出ておらず、第2四半期以降に出てくる。
- Q. 海外の水処理薬品事業について、現地通貨ベースの伸び率や地域別のビジネス環境変化について教えてほしい。
- A. 新規連結の影響を除く海外水処理薬品事業の現地通貨ベースの売上高は約7%の減少となった。中国では増値税の影響で3月の売り上げが増え、4月はその反動で減少したが、これは一時的な現象と見ている。
- Q. その他の収支における超純水供給事業の資産売却益が期初見込みより増えた背景は、売却資産の範囲が広がったことによるものか。
- A. 資産の範囲は期初の想定から変わっていない。今期の売上高や利益への影響についても期初計画から変わっていない。

- Q. 水処理装置事業の国内一般産業向けについて、土壌浄化と電力向けで足元の事業環境に変化はあるか。
- A. どちらも想定の範囲内の動きかと思うが、電力については、受注は増加したが、石炭火力への逆風もあるし原子力発電所の再稼働も限定的と見ている。土壌浄化については、継続発注してくださる顧客がいることに加え、商業施設や物流倉庫の土地への需要が強いと見ている。
- Q. 超純水供給事業の資産売却について、今後も同じようなことが起こるか。
- A. 今後ないとは言い切れないが、現時点で想定しているものはない。
- Q. 第1四半期における水処理装置の中国向け受注高と売上高を教えてください。
- A. メンテナンスも含め、受注高が約28億円、売上高が約45億円。
- Q. 今年度の中国向け水処理装置の受注高の見込みはどのくらいか。
- A. 期初計画では138億円と見ていたが、現在の受注ペースが続けば、この計画を下回る可能性もある。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。